【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立箞木学校

1 前年度評価結果の概要

〇4月の6年生全国学力・学習状況調査と5年生の県の学習状況調査はどの教科も県平均を10ポイント以上上回ることができ、記述力の向上が見られる。しかし、12月の県調査では4，5，6年生全教科とも県平均を上回ってはいるが、理科の実験用具の使い方など技能において課題が見られ今後，その対策を充実させる必要がある。また，今年度も全教員が研究授業を実施し，講師招聘による授業研究会を実施したことで、思考力や汎用的能力の育成において成果を上げることが出来た。来年度は教育課程の研究指定であり、学力向上のためのカリキュラム作りを行い，汎用的能力の更なる育成に向けて取り組んでいく。そして，次期学習指導要領に対応し，目指す児童像の実現に向けた学校作りに努めていきたい。
〇学校評価保護者アンケートでは25の質問項目のうち16項目で7月調査より評価が上がった。特に「学校目標達成の取組」，「児童が主体的に思考する授業の取り組み」については3．7ポイントと評価が高かった。また，「地域との体験型学習の充実」についても評価が高く，7月より上がっており，地域連携が深まり、郷土愛の育成につながっていると思われる。家庭での状況について，「家庭学習の取組」と「交通ルールを守る」の評価が上がっており，家庭との連携が進んでいると考えられる。「携帯，スマホ，ゲームの問題点についての啓発」については，昨年度から学校評価アンケートのポイントが低く，1学期に全児童に携帯スマホ，ゲームに関するアンケートを実施し，今年度も重点項目として取り組んできた。11月1日に実施した「ノーゲーム・ノーテレビデーの取組」でも全校の68%の家庭で取り組んだということであった。徐々に改善してきているが，まだまだ改善できることがある。12月の教育講演会では，昨年に引き続き、言語聴覚士による携帯スマホ，ゲームによる睡眠障害や脳の発達など脳への影響についての講演を企画し，啓発を進めた。

2 学校教育目標

◇◇◇保護者や地域の共に創る「一人一人の笑顔が輝く」箞木小◇◇◇

自ら気づき，考えて，動く子どもの育成

3 本年度の重点目標

- **主体性の深化と発展を目指したカリキュラムマネジメント**
- **地域人材の積極的な活用と，体験活動・表現活動の充実**
- **組織力を生かした業務の改善と，時間外勤務時間の縮減**

4 重点取組内容・成果指標 / 中間評価 / 5 最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・学力向上対策評価シートについて職員間で共通理解し、共通実践することを確認した。それぞれが立てた成果指標の達成を目指して実践を行っている。	A	・学力向上対策評価シートに各担任が記入したマイプランの達成率は83%であった。学力向上アクションプランの項目にそって定期的に自己評価を行い共通実践を進めた。	A	・児童の授業の様子を見ると先生たちの熱心さが感じられる。指導のための勉強会が行われている。主体的、対話的に学べるように設定されている。	学力向上コーディネーター
	〇主体的・対話的で深い学びの継続と展開	〇学校は，児童が主体的に考え，グループやクラスで話し合うことで，自分の考えを広げたり深めたりする授業に取り組んでいると思う保護者85%以上	・主体的に学べるような課題設定や単元を構成する。児童自身が学びをメタ認知できるような振り返りの場を設定し，よりアクションプランに沿った授業展開にできるようにする。	A	・日々の授業で取り組んでいくことの共通理解を図った。本校で行っている授業作りの考え方が継続していくように、各学年で身につける力を共通理解した。	A	・共通理解したことを日々の授業で取り組んできた。学校は，児童が主体的に考え，グループやクラスで話し合うことで，自分の考えを広げたり深めたりする授業に取り組んでいると思う保護者は99%であった。	A	・授業を参観したときに児童が自ら考えて動く姿を見た。日々の授業に児童が興味をもつように構成されている。先生たちが日々努力されている。	研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇「あいさつ＋一言」「ほかほか言葉」を推進し，児童の豊かな心づくりに取り組んでいると思う保護者85%以上	・児童の思いを高め，学校行事や集会活動を主体的に企画，運営する。 ・あいさつ＋ひと言、ほかほか言葉の推進をする。	B	・コロナウイルス感染症予防の観点から、昨年度同様の交流はできていない。集会やなかよし班そうじなど、上級生は上級生らしさを、下級生は自分の役割を意識しながら関わりをもつことができている。	A	・児童の思いを高め学校行事や集会活動を主体的に企画・運営できるように進めてきた。「あいさつ＋一言」「ほかほか言葉」を推進し，児童の豊かな心づくりに取り組んでいると思う保護者97%であった。	A	・すぐに「ありがとうございます」ということができる児童が多いことはすばらしいことだ。児童の学年の差がなく楽しく過ごしている。 ・あいさつはできるようになっているけれど、思いやりの心は表に表しづらいのではないか。	特別活動主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	〇道徳の授業やアンケートを効果的に活用しながらいじめの早期発見・早期対応，いじめを生まない集団づくりに取り組んでいると思う保護者85%以上	・いじめの早期発見のため月1回のいじめアンケートを実施する。 ・いじめを生まない集団作りのため、道徳や学級活動を中心とした授業の充実を図る。	A	・毎月1回のなかよしアンケートや日々の行動観察などにより、いじめの未然防止、早期発見、見逃しゼロにつなげている。いじめの覚知・認知を報告する事案が1件発生した。	A	・なかよしアンケートを毎月実施した。いじめを生まない集団作りを行い、道徳や学級活動の充実を図った。学校はいじめの早期発見・早期対応・いじめを生まないための集団作りに取り組んでいると思う保護者は96%だった。	A	・いじめ防止対策委員会の時に、学校はいじめ防止に積極的に対処していると感じた。保護者、児童に対して指導がされている。月に1回のいじめアンケートを行い、小さい事案でも取り上げられている。	教頭
●健康・体つくり	❷「望ましい生活習慣の形成」 ❹「安全に関する資質・能力の育成」	②学校は「早寝・早起き・朝ご飯」を呼びかけたり，生活を振り返る場を設定することで，よりよい生活習慣づくりに取り組んでいると思う保護者85%以上 ❹児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする	・「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底を図るために，元気チェックによる振り返りをする。 ・交通安全教室や避難訓練を通して，「自分の命は自分で守る」という危機管理意識の向上を図る。	A	・元気チェックにより「早寝・早起き・朝ご飯」の意識付けを行っている。児童がチェック項目ごとに振り返りを行うことでよりよい習慣の行動化につながっている。	A	・学校は早寝・早起き・朝ごはんの規則正しい生活習慣づくりに取り組んでいると思う保護者は94%だった。 ・学級や全校での指導により自分の命は自分で守るという意識が定着している。児童の交通事故は0であった。	A	・元気チェック等の取組がされていて、児童の習慣づけがされていてとてもいいと思う。 ・元気チェックにより意識の向上がなされている。	教頭
	〇日常的に健康・体力づくりに取組む力の育成	〇学校は，外遊びや，体育学習，環境を工夫することで，自ら運動しようとする態度づくりに取り組んでいると思う保護者85%以上	・運動検定カード(水泳・なわとび・持久走)を作成し，活用を推進する。	A	・持久走記録会前から持久走カードを配布した。全学年で意欲的に持久走に取り組む姿が見られた。	A	・時間を短縮し感染症予防対策をして体育行事を行った。学校は、外遊びやスポーツチャレンジ、環境を工夫することで児童が自ら運動しようとする態度づくりに取り組んでいると思う保護者は92%だった。	A	・朝登校後に外でなわとびなど元気に遊ぶ姿がよく見られる。 ・運動検定カードを作り、体力向上を図ることができている。今後も、運動が苦手な子供達が楽しめるようにしてほしい。	体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・教材の共有や校務の情報化を図る。 ・業務のマネジメントや協力・連携体制の推進を図る。	B	・時間外在校時間の上限（1ヶ月45時間）については、個人や時期によりできているときとできていないときがある。月45時間以内、年間360時間以内になるよう協力・連携体制を今後も推進していく。	B	・サーバの活用により、ワークシートや教材を共有できるようにしている。 ・水曜日を定時退勤推奨日として、定時退勤を意識する取り組みを行った。時間外勤務時間が月45時間、年間360時間を超過しないように連絡会で複数回呼び掛け意識付けを行った。	A	・学校側が積極的に取組まれていると思う。 ・時間外勤務時間の縮減に取り組まれている。	教頭

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
〇主体性の深化と発展を目指したカリキュラムマネジメント	〇「学び」「心」「体」3部の連携を軸とした教育課程の見直しと改善	〇教育課程研究部会の開催，年間5回以上	・管理職，指導教諭（教務），3部長で組織する教育課程研究部によるカリキュラムマネジメントの推進	A	・見通しが立ちやすいように行事や学習計画を早めに提案した。児童の実態を踏まえて、単元や時間のまとまり、重点の置き方を工夫して教科横断的授業作りを意識した教科年間指導計画を整理することができた。	A	・研究推進委員会を5回実施し、カリキュラムマネジメントの推進を行った。行事運営では、心つくり部と連携し、児童のアイデアを活かした計画・実践・児童の努力やよさを認める教師の声掛け・キャリアパスポートを活用しての振り返りとPDCAサイクルを確立した。	A	・授業参観の際、子供達がとても明るく楽しそうに授業を受けていた。 ・地域での訪問体験学習をされているところが良いと思う。 ・先生同士で勉強会をして工夫されている。	校長・教務
◎志を高める教育	◎地域と連携を図りながら郷土を誇りに思う児童の健全育成	◎地域の人・もの・ことを活用した体験型学習　全学年年間3回以上	・厳木町教育フェスタを活用した体験活動の場を設定する。 ・地域の方と学んだことを発信するとともに，学ぶよさを実感し、感謝の気持ちを伝える場として「地域ありがとう集会」を実施する。	B	・感染症予防対策のため厳木町教育フェスタは開催できなかった。 ・地域の人・もの・ことを生かした体験型学習を感染症予防対策をして行った。	A	・町切水車保存会や佐賀県環境サポーター、箞木小農業応援隊等の各種団体による協力のおかげで充実した体験活動を行うことができた。地域の人材を活用し全学年年間3回以上の体験型学習を行うことができた。 ・地域の人・もの・ことを活用した体験活動は郷土に愛着をもつことにつながっている。	A	・今年度はコロナのため大変だった中でいろいろな工夫をされて地域と連携をとっていてすごいと思う。 ・学校行事に地域の方が参加するところに驚いている。 ・教育フェスタは中止だったが、ありがとう集会、清掃作業等で連携が出来ている。	教頭

●…県共通　〇…学校独自　◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望

重点目標に対する評価と次年度へ向けて
・合科関連的な単元配列表を活用し効果的な教育課程を編成し実施することができた。指導と児童の学びの評価を連動させる手立ての構築を図っていく。
・地域人材との連携組織体制と実生活をつなげる地域人材活用授業を行い、体験活動や表現活動を充実させることができた。体験活動のさらなる充実と地域社会への発信や行動化の在り方を検討していく。
・業務の改善と時間外勤務時間の縮減については、改善の余地がある。職員が心身共に健康に働くことができるように、組織力を生かし、今後もより良い方策を探っていきたい。